

J R 総連通信

2018年10月4日 No.1287

全日本鉄道労働組合総連合会（JR総連） <http://www.jr-souren.com>

海外労組も JR 東労組の闘いを全面的に支援！

ICLSモンゴル労働フォーラム2018 大成功！



JR総連は2018年9月25～29日、モンゴル・ウランバートルで開催された国際労働者交流センター（ICLS）「モンゴル労働フォーラム2018」に10名を派遣した。

フォーラムでは「組織化の未来」というメインテーマのもと、「格差」「自動化」「ICLS強化」「青年・女性労働者」について議論。各セッションでJR総連からプレゼンや発言を行い、議論をリードした。

特に「ICLS強化」のセッションで、JR東労組山口委員長は「(18春闘は)交渉結果は昨年の妥結結果を超えることなく、大量の組織脱退を招いてしまったことから大敗北と総括」「これまでICLSの同志たちが苦しい中、組織拡大している教訓を改めて教訓化して、再び同志たちと肩を並べて闘いを創り出せるよう奮闘する決意」と発言した。

オーストラリアをはじめ各国の仲間より「ストライキは労働組合としての最終手段だが、昭和採用だけに決意を促すなんてありえない」「全組合員が決意しないストライキを強行した一部指導部の独善的な組織運営は組合員に支持されるわけがない」「私たちは、組合員に謝罪して、もう一度再結集するための運動を最大限支援する」「JR総連、JR東労組がんばれ！」との連帯、激励を受けた。

フォーラム閉会後に開催されたICLS国際運営委員会では、ICLSの強化・発展が必要であるという共通認識に立ち、運動を停滞させないために各種負担増を受け入れることが満場一致で確認された。

JR総連はICLS発展にこれからも尽力すると共に、多くの海外労組からも全面的な理解を得た18春闘総括と現在の方針に自信と確信を持ち、JR東労組本部方針を全面的に支援していく。



モンゴル鉄道労組連盟 バヤラー委員長と
JR総連 榎本委員長が交流協定を調印



JR東労組 山口委員長

職場からのたたかいと国際連帯で、JR総連運動をさらに強化しよう！